

日蓮宗 常栄山 本照寺だより

第104号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所 須藤教裕
本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438
honshou49@i.softbank.jp

25年ぶり 先生と生徒が市内のスーパードバッテリー!

■今年の3月19日、とってもいいこと、うれしいことがあり

◆延べ30回開催を超える「本照寺一泊お山しゅぎょう」ですが、第一回は写真①、8名参加でのスタートでした。そして今年3月、第一回の参加者からスーパードバッテリーで声をかけられ「とてもうれしかった」とのことです。寄稿してくださった、佐久間先生(写真右端)の一文をご紹介します。



まして、投稿させていただきます。厚木市「スーパードバッテリー」でお若い子供連れの母さんから、「佐久間さん、お山しゅぎょうの一期生です!」「え! 私が分かりました?」「ええ、全然変わっていません」と。うれしかった! もう25年くらい前なのに! それからの話は、もう同窓会のように話した。七沢温泉にも行きましたよ! 「プールにも!」「夜の花火、それから朝のマクドナルド!」「ジイジ私の夫・重実も元気ですか?」「車にいます!」「え! 会いたい!」

人生2度目のコロナ感染で得られた、修行に関する学びの2記事目です。

●なぜ距離が取れないのか

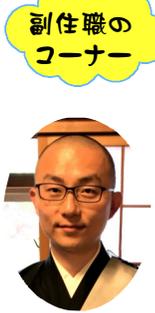
そうした問題があり、今までの人生で実際に数多くの失敗をしているのにも関わらず、なぜ私たちは心の声と距離が取れないのでしょうか。それはまず、私たちのほとんどが、心の声を「まさに私そのもの」であると思ってしまうからだと思います。自分そのものである心に浮かんだことや考えたことを大切に、握りしめているのです。

コロナにかかって学んだこと②

●心の声と心の貼りつき
さて、コロナでしばらく修行ができなかった私は、絶え間なく生じる心の声と、それを観察している心が隙間なく貼りつき、距離が取れなくなっていることに気づきました。

その結果、こんなことをしてしまいます。同じくコロナに感染した小学1年生の娘と過ごしていたのですが、娘が粗相をしたときのことです。

今までであれば、頭



副住職のコーナー



ひざをハンマーで打つと自分の意志とは別に、すねが上に持ち上がりやすくなる。それと同じように、そこにじっくり考えて言葉を選んで余地はなく、コントロールを失ってまるで全てが自動で流れているようでした。

頭が浮かんでくる言葉と距離が置けず、浮かんだ言葉がすぐさま口をついて出てしまうのです。別に本心からそう思っている訳ではなくても、今までの学習・経験・習慣の蓄積から自動的に言葉が紡がれてしまい、それを止めることができないのです。

ひざをハンマーで打つと自分の意志とは別に、すねが上に持ち上がりやすくなる。それと同じように、そこにじっくり考えて言葉を選んで余地はなく、コントロールを失ってまるで全てが自動で流れているようでした。

娘には不必要に攻撃的な物言いをしてしまつたと反省しております。

朝の詩

イタズラ
さいたま市北区
櫻井ヒデ 94

竹の子の季節になると笑ってしまう
町のはずれの竹林に立て札が立ちました
「この山の竹の子掘るな」
翌日立て札に幼い字で張り紙があり
「ここほれわんわん竹の子ほれほれ」

これを見た人々は皆大笑いしイタズラは風とともに笑い飛ばされた

でも今日は続く毎日か今日のようにぼくは明日も生きる

いつも思うこと
東京都大田区
菅正昭 79

きのう妻と出会うって結婚して四国へ渡りきのう長男が生まれきのう知的障害の次男坊が生まれテンテコ舞いのあげくきのう妻が死んだ全てはきのうの出来事

あなた
岩手県二戸市
小松遊平 71

結婚当初あなたには天女に思えたあれから30年閻魔さまだったとあなたが10年観音さまだった

同音異義

埼玉県鴻巣市
神宮博道 78

昔 中学校の廊下に「廊下は走るな」と張り紙があった65年ものことだ俺は老化を走っていることに気付いただからこれからの人生の老化は走らないことにした 中学校時代の張り紙が今生き返った(産経新聞)



建てられていない卒塔婆は昨年8月16日から墓本堂左手前廊下に立てかけてあります。墓参りをされ、お建てくださるよう。

12時半 沼田恒子・高野健司・頼住博・野村福住・福住保男・松尾義徳・大高明美・長澤政幸。午後3時半以降 藤本洋一・坂本一郎・藤川浩美・榎本良洋・菊川新一。

お施餓鬼・お盆のご供養

■8月16日、午前9時から10時過ぎまで先祖供養のための大法要「お施餓鬼供養会・おせがききょうえん」を執り行います。新盆を迎える方は必ず出席のもとご供養いたしたいものです。

■卒塔婆(そとうば)ご供養希望の方は同封の「払い込み用紙」を用いお申し込みください。払込用紙の通信欄に「先祖代々」や「00院00信士、信女」などと、どなたの卒塔婆を立てるのか必ずご記入ください。未記入の場合は先祖代々とさせていただきます。

【卒塔婆受取概ねの時間帯】
▼法要直後・午前10時半〜



★今年も墓参用の花を「花美」さんが8月10日〜15日までご用意してください。

ご埋葬 おまかせください
学費代 38,000円
埋葬料 11,000円
本照寺様出入り石材店
株式会社イシックス
0120-011440 isix.jp

刑事は僧侶になるために必要な「修行」だった

氏は昭和21年東京生まれの77歳。高校卒業後、神奈川県警の警察官となる。様々な死を目の当たりにし、家族を失った遺族の悲しみや苦しみの心に「ともしび」を灯すために「横須賀署捜査第一課・強行犯係長」時に警察官を辞め、翌日から日蓮宗の上人に師事して修行を始める。時に53歳。そして3年後、外界との接触を禁じられ、厳格な規則のもとで修行に専念する身延山での「修行道場」を経て、大島氏は正式な僧侶となった。

遭遇した変死体は2千超

大島龍穂(77)は横須賀の追浜では有名な僧侶である。元刑事という異色の経歴だからだ。殺人など凶悪犯罪の刑事。銃を持つ銀行立てこもり犯に丸腰で突っ込んだこともある猛者だ。

「そんなでホシがとれるか、バカ野郎」。毎日怒鳴り、留置場では容疑者と間違えられて身体検査されてしまう「がらっぱち」だった。それが働き盛りの53歳で辞めた。平成12年だ。「坊さんに? 冗談だろ?」。同僚は仰天した。

3年後、信行道場を修了して日蓮宗の僧侶となり、勤めを追浜の自宅で行う在宅僧侶になった。徐々に仕事が無駄込み、地域に溶け込んだ。法事を引き受け、頼まれれば全国に講演に行く。街の人の悩み事の相談にのる。「服役中の息子が出所したらどう接すればよいか」元刑事と知った上での相談が目立つ。経験

倅はまだ行かんぞ

息子を失う

「そんなんかできない。ることなんかできない。りかかつてきた。地獄は、あつた。」

僧侶転身13年後の平成25年7月5日。長男の兼信が死去した。直腸がん。40歳の若さだった。同じ警察官の道を歩み、警部補に昇任したばかり

大島 上人は全国をまわつての講演や法要等に加え、無料相談所「みちしるべ」を立ち上げ、相談者の悩みを受け止めて解決に導く活動を開始。現在「久里浜少年院篤志



面接院」会長。また横須賀の自宅を拠点に僧侶としての活動を行い多くの人々の相談に乗っている。



35年間に関わった凶悪事件は3,500件。神奈川県警の鬼と言われた刑事が、笑いと涙あり、波瀾万丈の半世紀

拐された。自責の念で半狂乱の母親を、新米刑事の大島は正視できない。しかも事件は迷宮入りしてしまう。己の無能を殴りたくなくなるほど恥じた大島は以来、鬼になると誓った。「刑事はホトケ(殺人被害者)の代理人」と信じ、遺族の喜ぶ顔を見たくて犯人を追った。刑務所に何人送ったか、多すぎて覚えていない。逮捕し続けた。それなのに、虚無感が募る。犯人逮捕に遺族は「ありがとごさいました」と感謝してくる。だが次の瞬間、遺影に「私もすぐそちらに参りますから」と言うのだ。いや、生きてほしいのに。元氣を出

してほしいのに。いや、最愛の人を失い、元気になるわけがないのだ。「犯人逮捕で遺族は癒やせない。必要なのは祈りではないか」。疑問が膨らんだ。遭遇した変死体は2千超。多くの死と接した経験から、遺族の無念を鎮めることができないものか。そんな思いが大島を仏門に向かわせた。この世は浄土と地獄が表裏一体。平穏な生活でそれに気がつくことはない。でも、いつか地獄を垣間見ることになるかもしれない。そのとき、大島は問うてきた。僧侶として、誰も答え

だった。神奈川県警本部で、父と同じ凶悪犯を扱う捜査第一課の主任を務めていた。元同僚たちが「父親のおまえよりはるかに優秀」と期待する若き刑事だった。警部補昇任の管区研修で、関東甲信越から集まった昇任者1千人の大総代に指名された。それが凄惨な大島にはよく分かる。口の悪い大島もさすがに「すごいな、おまえ」と褒めた。「一緒に仕事したくて刑事になったのに、父さんはさつさと辞めてしまつて残念」。さらりと笑い、父親を喜ばせる息子だった。その兼信が病院の安置室に横たわっている。われを失った。「何してんだよ、この野郎」



すがりついた。「そこに立ってホトケを調べるのが仕事だろ。おまえが寝てどうすんだ。起きろよ。起きろ!」

「がんと分かつたのは東日本大震災の年の秋。医師か

令和5年、肺に影が見つかり、再発を前提とした治療が始まった。おまえ、苦しかっただろう。おまえの分も俺は頑張るわ。地獄を垣間見たとき、どう励まし合っている。

編集後記

前号の編集後記に「卑怯」「卑しい」との文言を連ねましたが、ビートたけしが竹田恒泰(作家・元慶応大学講師)との対談で次の発言をしています。「子供の文化的な教育は絶対に必要だと思いますね。うちのお袋はすごく古いタ イプで、男爵家の女中頭をやっていた教育にうらさかつたですよ。食べ方にしても並んでまで買わない。『もつてけ泥棒』みたいな安物を買ってなにか嬉しい!』と。うちの兄(北野大・明治大学元教授、共々言われまじい)近所であつたり買つたり買つたり食べるのは絶対に出来なくて、おいらが買つたり食べるのはみんなが飽きたころ(笑)、と。◆そうなんです。人に迷惑をかけず並んで食べることが「卑しい」のですから、スーパードで「手前取り」ならぬ「奥取り」なのは食品廃棄につながる人に迷惑もかけ、この上なく「卑しい」のです。ある時、甲府市ヨークフードで母親が小学生女児の前で、正々堂々と手前の冷凍食品全てを取り除き最奥の「奥取り」をし ければ良いのです。「あなたもこうするのよ」と手本を見せているのでしよう。「子供の文化的な教育は絶対に必要」とのビート たけしはさぞ、嘆くだろう。「貧乏だけ卑しくはなるな」と。